

はベースがフラット・ファイブのG♭音となる。そして、4つ目はマイナー・シックスでの通常のフォームである。また最後のようなフォームもよく使われる。これらのギンギンを見るに現代のそれと比較してもなんら引けを取らない。それだけジャンゴのコード・ソロは強力であったのだ。それにしても、一切の音楽教育を受けておらず、ましてや譜面もまったく読めなかった彼が、こういったコードを自分の音感だけを頼りに巧みに弾いていたのだから、まさに天才といえるだろう。

SOLO PLAY

●メジャーとマイナーのアルペジオ

さて今度は魅力溢れるシングル・ノートのアドリブ・ラインに目を向けてみよう。ジャンゴのソロの特徴にまずあげられるのがアルペジオ・ラインである。GメジャーとGマイナーにおけるアルペジオの一例を図-3、図-4にそれぞれ示してみた。ネック全体を使っているのがわかるはず。このアルペジオを基本に、例えば図中の△で記したシックスの音を加えてみたり、またここでは記さなかったがセブンスの音を加えたりしてさまざまなバリエーションを展開している。そして驚くべきことに、こういったアルペジオは人差し指と中指だけで弾かれていたのだ。まさに神業である。

●ディミニッシュのアルペジオ

メジャーとマイナーの次に好んでよく使うのが、ディミニッシュのアルペジオだ(図-5)。これはディミニッシュ・コードの時に使われるが、それ以外にドミナント・セブンスでも使われることがある。それをわかりやすく示した例がEx-6だ。Am8のドミナントにあたるE7のところでG♯ディミニッシュのアル

ペジオ(E7♭9とG♯dimは代理コードの関係にあたる)を、Am8のところではAマイナーにナインスを隣り変えたアルペジオを、となっている。ゆっくりでいいから試しに弾いてみよう。これだけでもかなりジャンゴっぽい雰囲気になるだろう。それだけディミニッシュ・サウンドは、ジャンゴにはなくてはならない大切なアイテムだったのだ。

●実際のコード進行でのアルペジオ・フレーズ

では、実際のコード進行におけるアルペジオ・フレーズの極めつけの例をあげてみよう。Ex-7は、彼の代表作「ジャンゴロジー」に収録の「アフター・ユー・ゴーン」のソロなどで見られる連続弾きだが、各コードに対応したアルペジオに、これもジャンゴの特徴であるハンマリング&プリングが各フレーズの終わりに弾かれている。その見事な流れは舌を巻くほどの素晴らしいものである。

●スウィープ・ピッキング

アルペジオはネックに対して横の動きを要するわけだが、その逆ジャンゴはスウィープ・ピッキングを当時から当たり前のように行っていた。Ex-8はGメジャーのアルペジオにおけるスウィープ・ピッキング例だ。前出Ex-7もフレーズ最初の4弦〜1弦までは連続ダウンで弾いている。

●独特なスケール運指

スケールについてはさまざまな運指が見られるが、その中でもひとつの弦に対して3音ずつ弾いていくEx-9などは、ジャンゴを始めとしたヨーロッパ系のギタリストがよく使っているもののひとつだ。

●クロマチック・アプローチ

ジャンゴのソロにはクロマチック・アプローチも頻りに使

場し、巧みな使い方がなされている。Ex-10aはGメジャー・スケールを軸に2拍単位で同じ音型をどんどん展開していったフレーズだが、ここで△囲みで記されたスケール以外の音をクロマチックで選んでいる。なお、ここではスケール内の音は半音であってもクロマチック・アプローチからは除外した。同じくEx-10bはそのバリエーションである。そして、Ex-11はジャンゴの18番である半音ずつスピーディに上がっていくクロマチック・ランだ。余談だが、ジャンゴの再来と謳われたビレリ・ラグレーンに以前インタビューした際、これをスムーズに弾くコツは、ピッキングする右手の力を抜くことだと話していた。

●クロス・ピッキング

3本の弦にわたって同じピッキング・パターンをくり返すクロス・ピッキングもジャンゴは多用していた。Ex-12はディミニッシュ・スケール、Ex-13はオーギュメント・コードにおけるホルトーン・スケールでのフレーズ例である。ピッキングはアップのあとにダウンを3回でひとつのパターンとなっている。

●その他

オクターブ奏法と言えはウェス・モンゴメリーが有名だが、すでにジャンゴはこの時代から使用していた。また、ハーフ・チョーキングやクォーター・チョーキングも積極的に使っていたことも追記しておく。

Ex-7: アルペジオ・フレーズ・バリエーション 2

Ex-8: スウィープ・ピッキング

Ex-9: 独特なスケール運指

Ex-10a: クロマチック・バリエーション 1

Ex-10b: クロマチック・バリエーション 2

Ex-11: クロマチック・ラン

Ex-12: クロス・ピッキング (ディミニッシュ・スケール)

Ex-13: クロス・ピッキング (ホルトーン・スケール)